本報告書は、「やまぐち」からの情報発信、交流・創造へのプロセスと題して、平成28年度事業活動を体系別にとりまとめたものです。

そこには、多くのアーティストとの関わり、作品紹介を通した人々の交流・対話、様々な反響と新たな感動など、この山口の地から発信できた、ひとつひとつの成果があります。

今後も、この施設でさまざまな人々が出会い、対話し、新たな情報芸術の創造と発信の拠点となることを目指し、事業展開を図ってまいります。

ご覧いただき、ご感想、ご意見などをお寄せいただければと思います。

また、この場をお借りして、事業に関わってくださったアーティスト、ボランティア、体験・参加者、観劇者等すべての方々に、深く感謝申し上げます。

平成29年9月
山口情報芸術センター
館長　足立　明男

目　　次

平成28年度山口情報芸術センター収支決算 …… 2
平成28年度山口情報芸術センター組織図 …… 2
平成28年度山口情報芸術センター事業概要 …… 3
[1] アート …… 4
[2] パフォーミングアーツ …… 10
[3] 教育普及 …… 12
[4] 地域開発 …… 20
[5] シネマ …… 28
[6] 主な貸館事業 …… 38
[7] 施設利用状況 …… 38
[8] その他特記事項 …… 38
主な関連新聞記事 …… 39
(参考資料)山口情報芸術センターの活動成果 … 49

平成28年度 山口情報芸術センター収支決算

山口情報芸術センターの収支決算は、施設維持管理費と自主事業費に大別されます。
自主事業費は、次頁からの事業実施経費で、当財団会計処理規程によるものを各事業体系に合わせ整理、表現したものです。

1　施設維持管理費

（支出の部）

科　目	決算額(円)
施設費	163,193,546

*主な支出は、
①市立図書館を含めた施設全体に係る電気･ガス･上下水道の光熱水料費（45,592千円）
②施設全体に係る清掃･空調設備等保守業務委託料、スタジオに係る舞台機構等の保守業務委託料などの保守管理経費（81,324千円）です。
*この財源は、山口市からの施設管理運営委託料、雑収入です。

2　自主事業費

（収入の部）

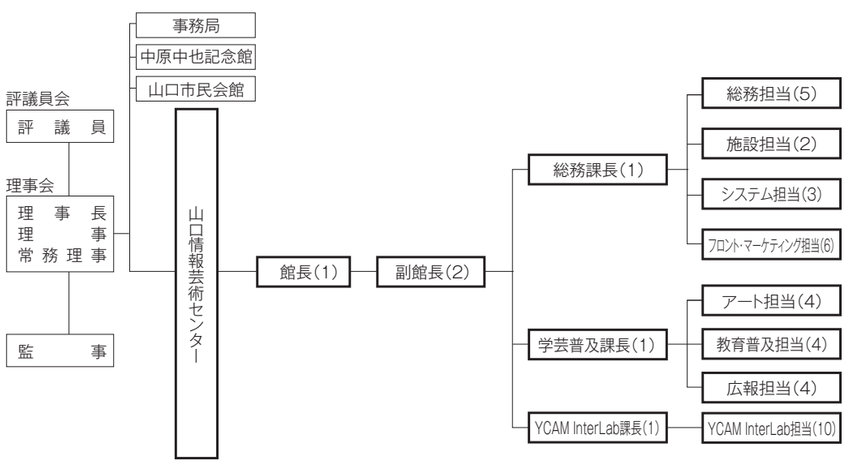
科　目	決算額(円)	備　考	構成比(%)
チケット収入等	10,250,100	演劇・ダンス等公演・映画に係る入場料収入	3.6
助成金収入	16,045,889	文化庁等による助成金	5.6
雑収入等	14,241,147	ワークショップ参加料、カタログ等販売手数料、業務委託料等	4.9
補助金等収入	246,337,109	山口市からの自主事業実施係る補助金、委託金	85.9
合　計	286,874,245		100

*チケット収入は収入全体の3.6%ですが、演劇等公演のチケット料金の安価設定やアート事業展覧会の入場無料など、鑑賞機会の創出に主眼を置いた取り組みをしています。

（支出の部）

科　目	決算額(円)	備　考	構成比(%)
人件費	132,737,771	市派遣職員・専門員・副専門員・常勤職員等の人件費	46.3
アート	22,317,461	アート企画展等に係る経費	7.8
パフォーミングアーツ	6,499,915	ダンス・パフォーマンス公演等に係る経費	2.3
教育普及	24,199,096	ワークショップ、レクチャー等に係る経費	8.4
地域開発	12,915,354	調査活動、ワークショップ等に係る経費	4.5
シネマ	28,999,917	シネマ上映等に係る経費	10.1
共通事業費等	59,204,731	広報費、研修費、アーカイブ、旅費等その他経費	20.6
合　計	286,874,245		100

平成28年度山口情報芸術センター組織図（平成28年4月1日現在）※職員数44人(内、兼務５人)



平成28年度 山口情報芸術センター事業概要

1　山口情報芸術センターについて

山口情報芸術センター・通称「YCAM（ワイカム）」は、展示空間のほか、映画館、図書館、ワークショップ・スペース、キッチンなどを併設したアートセンターです。2003年11月1日の開館以来、メディア・テクノロジーを用いた新しい表現の探求を軸に活動しており、展覧会や公演、映画上映、ワークショップなど、多彩なイベントを開催しています。

現在、私たちを取りまく社会では、コンピューターや通信技術、映像などによる「メディア・テクノロジー」が目まぐるしいスピードで進化しています。これにより、私たちの生活はあらゆる局面で情報化が進み、コミュニケーションのあり方も大きく変わりつつあります。

こうした変化は、経済活動や社会構造の変化へとつながり、「情報化社会」や「グローバル社会」などと呼ばれる、人類がかつて体験したことのない社会的状況をつくり出しました。またその変化は、個人レベルの身体感覚やリアリティ、想像力にも影響を及ぼし、それらを基盤とした新しい表現が世界中で生み出されています。

YCAMは、このような背景のもとに生まれた新しいスタイルのアートセンターです。

市民やさまざまな分野の専門家とともにつくり、ともに学ぶことを活動理念としながら、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方、文化基盤としての情報の可能性、さらには人間にとっての情報の意味について、幅広いアプローチで探求をおこなっています。

また、近年ではアートの視点から地域の魅力を掘り起し、新たなつながりや価値を創出し、文化振興の枠を超えてまちの賑わいや中山間地の振興などの地域課題にも取り組んできました。

そして、この過程で生み出される表現や学びを世界に向けて発信し、次世代を担う人材の育成に寄与することを目指しています。

今後も「R&D（研究開発：Research & Development）プロジェクト」と呼ばれる形態を中心に、「YCAMでなければ生み出せないオリジナル作品の制作」「メディア・テクノロジーと市民をつなぐ教育プログラムの提供」、「地域の課題や資源とメディア・テクノロジーの融合」の３点を重視しながら様々な事業を実施していきます。

2　事業の概況

山口情報芸術センターは、2017年2月に入館者数1,000万人を迎えました。これは当初の予想よりも7年以上早い達成であり、年間平均70万人以上の方が来館されている計算となります。

夏に開催した「コロガルガーデン」では、運営に携わる「子どもスタッフ」と呼ばれる利用者のご協力もあり、約２ヶ月半の会期中に５万人を超える方々にご来場いただきました。その他の事業においても、多くの市民の方々や、様々な教育機関や研究機関等にご協力をいただきながら研究開発を進め、その成果を展覧会やワークショップなどを通して市民のみなさまにお伝えしてきました。また、YCAMを飛び出して国内外のシンポジウムや学会でYCAMの取組や研究成果を発表する機会を多く得ることもできました。

このように、開館１３年で1,000万人もの方々にご来館いただけたのも、また、研究成果発表の場を多く設けることができたのも、ひとえにみなさまのご支援・ご協力があってのことです。今後もメディアテクノロジーを軸とした新しい表現や学びを世界に向けて発信し、次世代を担う人材の育成を目指してまいります。

3　各事業総括表

事業区分	事業数	入場者数（名）
[1] アート	3	20,362
[2] パフォーミングアーツ	1	781
[3] 教育普及	4	54,717
[4] 地域開発	3	5,393
[5] シネマ	5	15,600
[6] 貸館（件数）	31	5,419
合　計	47	102,272

*事業区分･事業数の詳細については、次頁からの個別事業(実施月順)の内容をご覧下さい。

1※[1] 1※[1]

1※[1] 1※[1] 1※[2]

1※[3] 1※[4]

1※[1]「もしも、森のいきものになったら」体験＋ YCAM バイオ・リサーチ・ワークショップ「森の DNA」参加　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1※[2] もしも、森のいきものになったら at YCAM　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1※[3]【関連】360° PV 体験：スクエアプッシャー「Stor Eiglass」　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1※[4]【関連】トークイベント：360°の物語「もしも、森のいきものになったら」のつくりかた　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1　もしも、森のいきものになったら

●「もしも、森のいきものになったら」体験＋YCAMバイオ・リサーチ・ワークショップ「森のDNA」参加

開催日:10月9日（日）、10日（月・祝） 各日9:30～14:00／11:45～16:15／13:30～18:00／（計6回）
会場:犬鳴の滝（山口市仁保）
参加者数:104名（一般2,500円他）
対象:13歳以上
講師:田中浩（山口県立山口博物館動物担当理学博士）、YCAMバイオ・リサーチメンバー

ロンドンを拠点に活躍するクリエイティブ・スタジオ「マシュマロ・レーザー・フィースト（MLF）」によるバーチャル・リアリティ（VR）体験作品を、YCAMを飛び出し実際の森のなかで実施しました。参加者はヘッドマウンドディスプレイを装着し、映像と音響に身をゆだねながら、人間とは違う視覚を持った森の生きものたち―トンボ、ユスリカ、フクロウ、カエル―になって仮想空間上の森を移動するかのような体験をします。
また、体験後にはYCAMバイオ・リサーチメンバーらと共に森の生きものを採取し、顕微鏡での観察やDNA解析の一部を体験するワークショップを実施するプログラム構成となっており、自分の手を使って森の豊かさを実感できるYCAMだけの特別プログラムとなりました。なお、参加者が集めた植物の顕微鏡での観察記録やDNA配列、種の判定結果などを収録したウェブサイト「森のDNA図鑑仁保の森2016」を後日公開しました。

●もしも、森のいきものになったら at YCAM

開催日:10月6日（木）、7日（金） 11:00～18:00
会場:YCAMホワイエ
対象:13歳以上
参加者数:236名（参加無料）

MLFによるVR体験作品を、野外ツアーに先駆けYCAM館内でも紹介しました。

【関連】360°PV体験:スクエアプッシャー「Stor Eiglass」

開催日:9月10日（土）～10月10日（月・祝） 11:00～17:00<火曜除く>
会場:YCAMインフォメーション・スペース
対象:13歳以上
体験者数:865名（参加無料）

MLFメンバーが制作に参加している、ミュージシャン・スクエアプッシャーの楽曲「ストア・イーグラス（Stor Eiglass）」のVR型プロモーションビデオを展示し、まるで自分がその世界に飛び込んでいるようなバーチャル・リアリティの世界をお楽しみいただきました。

【関連】トークイベント:360°の物語「もしも、森のいきものになったら」のつくりかた

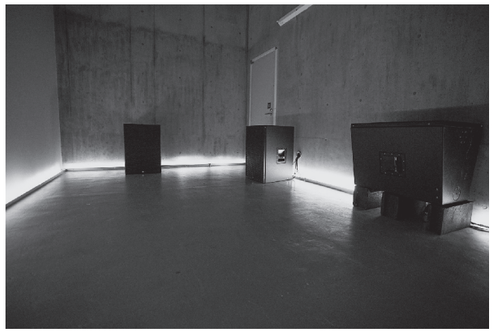
開催日:10月9日（日） 18:00～20:00
会場:YCAMホワイエ
参加者数:51名（参加無料）
登壇:アーシン・ハン・アーシン（MLF）

MLF「もしも、森のいきものになったら」でクリエイティブ・ディレクターを務めたアーシンに、バーチャル・リアリティを駆使して人の五感を刺激してきたMLFの活動の紹介等を行っていただきました。

[1] アート

ART

アート



3※1
3※2
3※3
3※4
3※5
3※5
3※7
3※6
3※6

3※1 Avatars 撮影：古屋和臣
3※2 A Wave 撮影：古屋和臣
3※3 The SINE WAVE ORCHESTRA stay 撮影：古屋和臣
3※4 The SINE WAVE ORCHESTRA in the depths 撮影：古屋和臣
3※5 【関連】オープニングライブ 撮影：萱野孝幸
3※6 【関連】アーティストによるギャラリーツアー 撮影：萱野孝幸
3※7 【関連】ギャラリーツアー 撮影：萱野孝幸

3 バニシング・メッシュ

開催日:2017年2月18日（土）～5月14日（日）10:00～19:00 <火曜除く>

「Vanishing Mesh」とは、技術革新によって見えなくなっていく様々な境界線や囲いを暗示しています。どこにいてもネットワークに接続できるユビキタス社会の実現は、スマートフォンの普及により加速し、時間や場所を問わず、多種多様な情報にアクセスできる環境を私たちにもたらしました。本展覧会は、進化するIoTなどに即時に適応していくポストユビキタス社会において、テクノロジーを導入した芸術表現の刷新によって、現在の情報環境を批評していく試みを2組のアーティストとともに行いました。

●Avatars

会場:YCAMホワイエ
入場者数:7,325名（入場無料）
アーティスト:菅野創+やんツー

会場に置かれたコーンや黒電話、植木など大小さまざまな16のオブジェクトにインターネットを介してログイン（憑依）することを可能にし、無機物であるはずの日用品が意思を持ち行動することで発生する未知の関係性を観察するインスタレーション作品。鑑賞者はウェブブラウザから各オブジェクトにログインして作品を体験できることから、国内はもちろんのこと海外からも大きな反響がありました。

●A Wave

開催日:2017年2月18日（土）～5月14日（日）<火曜、3月23日～3月30日除く>
会場:YCAMスタジオA
入場者数:2,647名（入場無料）
アーティスト:サイン・ウェーブ・オーケストラ

巨大なスクリーンに投影されるオーディアビジュアル作品。映像と音響は、いずれもインターネット上にアップロードされた膨大な量の動画を、独自のアルゴリズムでリアルタイムに解体／再構成しているものです。素材となる動画が持っていた意味は剥奪され、サイン・ウェーブを構築するための抽象的な光と音へと還元されます。全ての音は複数のサイン波を組み合わせることで表現可能ですが、本作では、多くの素材を切り刻みつなぎ合わせることでひとつのサイン波を作り出しました。

●The SINE WAVE ORCHESTRA stay

会場:YCAMスタジオB
入場者数:4,465名（入場無料）
アーティスト:サイン・ウェーブ・オーケストラ

会場には、49対のスパイラル状に加工された銅のワイヤーが設置されており、それに訪れた人が一つずつサイン波を鳴らすデバイスを取り付けます。人が訪れるにつれてそれらの音が互いに重なり合い複雑さが増し、聴取する場所によってもその様相が大きく変わります。会期中、その姿が絶え間なく変化していく作品となりました。

●The SINE WAVE ORCHESTRA in the depths

開催日:2017年2月18日（土）～5月14日（日）の内土日祝のみ（1日12回、計360回）
会場:YCAM地下スペース
入場者数:415名（入場無料）
アーティスト:サイン・ウェーブ・オーケストラ

コンクリートで囲まれた空間と、そこに設置された4台のスピーカーから発せられるサイン波で構成されるサウンド・インスタレーション作品です。空間の特性によって導き出された特定の周波数のサイン波によるバリエーションは、聴取する位置によって動的に変化し、訪れた人それぞれに対し個別の体験を生み出します。本作はナビゲーターによるツアー形式で実施しました。

【関連】オープニングライブ

開催日:2017年2月18日（土） 18:00開場／18:30開演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:100名（入場無料）
出演:Kyoka、duenn+Madegg、古舘健（サイン・ウェーブ・オーケストラ）、石田大祐（サイン・ウェーブ・オーケストラ）

展覧会参加アーティストをはじめ、4組のアーティストがライブパフォーマンスを披露しました。

【関連】アーティストによるギャラリーツアー

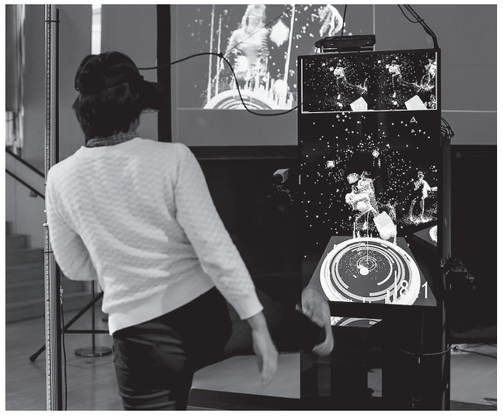
開催日:2017年2月19日（日） 14:00～
参加者数:35名（参加無料）

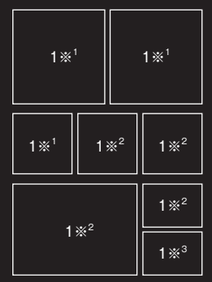
作品を制作したアーティストとともに展覧会を巡り、作品の背景にある技術やコンセプトについて、デモンストレーションを交えながらディスカッションをおこないました。

【関連】ギャラリーツアー

開催日:2017年3月4日（土）～5月13日（土）の内毎土曜日 14:00～（計6回）
参加者数:計56名（参加無料）

ファシリテーターと共に作品を体験しながら、鑑賞のポイントを発見し、参加者同士でディスカッションをおこなうギャラリーツアーを毎週開催しました。





1 ※1　共同研究プロジェクト1　YCAM Perception Engineering × 笠原俊一（ソニー CSL）Superception
〇プレゼンテーション「ビジュアルが生み出す超知覚と動き」　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）
〇関連インスタレーション「RADICAL BODIES—VR でダンスダンス」　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1 ※2　共同開発プロジェクト2
YCAM Perception Engineering × 熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター）当事者研究
〇プレゼンテーション「距離感のビジュアリゼーション」　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）
〇関連ワークショップ「パーソナルスペース再発見」　撮影：田邊アツシ

1 ※3　ネットワーキング・レセプション　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1　Perception Engineeringキックオフ—つなげる身体

開催日:2017年1月21日（土） 13:00~20:00
会場:YCAMスタジオA
参加者数:プレゼンテーション計 85名（参加無料）
ファシリテーション:伊藤亜紗

テクノロジーを通じてダンスを生み出すYCAMの研究開発プロジェクト「Reactor for Awareness in Motion（RAM）」を発展させ、本年度よりスタートした新しいプロジェクト「Perception Engineering（PE）」のキックオフイベントを開催しました。
PEは、RAMで得られた成果をダンス以外の分野にも展開していくもので、身体の動きにインタラクティブに反応する映像や音、振動などの刺激が、私たちの知覚や身体の動き、さらには人と人とのコミュニケーションにどのような変化をもたらすのかを、さまざまな専門家たちと共に研究を進めています。
本イベントでは、共同で研究をおこなっている研究者を招き、研究の過程をご紹介するとともに、研究成果の一部を展示やワークショップとして発表しました。

●共同研究プロジェクト1　YCAM Perception Engineering×笠原俊一（ソニーCSL）Superception

〇プレゼンテーション「ビジュアルが生み出す超知覚と動き」
出演:笠原俊一（ソニーCSL）、YCAMスタッフ

超知覚（Superception）は、笠原氏が進めている、コンピューターを用いて個人が持つ知覚や感覚を接続・変容させる研究です。この度、YCAMとコラボレーションし、RAMシステムの効果の科学的な検証を試みました。具体的には、RAMシステムを用いてVR（バーチャル・リアリティ）空間で自分の身体の動きを時間的・空間的に変調させることで、身体の軽さや重さなど物理的な感覚の変化を生み出す共同研究を行い、その成果についてプレゼンテーションをしました。

〇関連インスタレーション「RADICAL BODIES VRでダンスダンス」
開催日:2017年1月14日（土）~1月21日（土） 11:00~17:00　最終日のみ11:00~20:00 <火曜除く>
会場:YCAMホワイエ
対象:13歳以上
参加者数:632名（無料）

ヘッドマウントディスプレイをつけ、VRの中で、自由に動いて楽しみながら、研究成果の一部を体験できる作品を公開しました。体験者に、実際の動きよりも“少し未来=少し先をいく”自分の動きを見せたり、横で踊る他の人の映像と今まで見ていた自分の動きが交換されたりすることで、“現実”と“VR”のズレによって生まれる、不思議な感覚をお楽しみいただきました。

●共同開発プロジェクト2　YCAM Perception Engineering×熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター）当事者研究

〇プレゼンテーション「距離感のビジュアリゼーション」
出演:熊谷晋一郎（東京大学先端科学技術研究センター）、砂連尾理（振付家・ダンサー）、YCAMスタッフ

一般に複数の人々が会話する際には、それぞれの人がお互いの「パーソナルスペース（なわばり）」を調整しながら立ち位置を決めていると考えられています。自閉症スペクトラム（ASD）の診断基準では、コミュニケーションをおこなう際の対人距離や動作のリズムといった非言語的な要素が定型発達者とは異なるといわれています。このプロジェクトでは脳性まひという自身の身体から出発した当事者研究を行っている熊谷氏と共同で、パーソナルスペースをキーワードにこうした違いを分析しながら、人と人とのすれ違いの原因や新しいコミュニケーションのスタイルを考えます。RAMシステムを応用して自分や他者のパーソナルスペースを視覚や触覚を通じて知ることで、どのような発見が得られるかをリサーチしました。

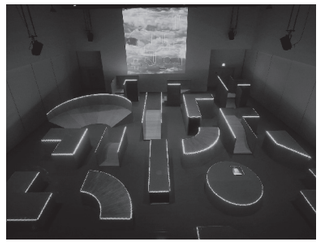
〇関連ワークショップ「パーソナルスペース再発見」
対象:13歳以上
参加者数:21名（参加無料）
講師:砂連尾理（振付家・ダンサー）、YCAMスタッフ

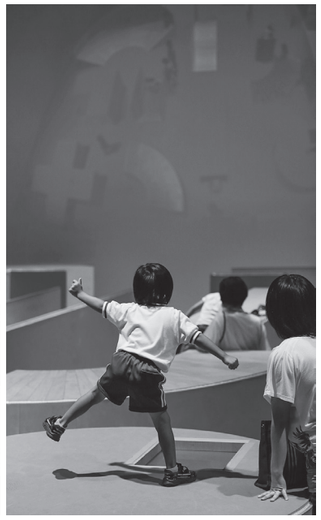
熊谷氏との共同研究からのヒントをもとに、YCAMと振付家・ダンサーの砂連尾理氏がオリジナルワークショップを実施しました。人によって違う快適な人との距離。さまざまなパーソナルスペースを体験することで見えてくるコミュニケーションの可能性を探す体験となりました。

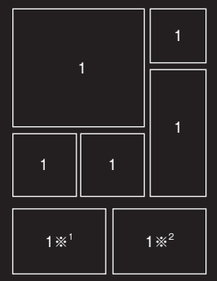
●ネットワーキング・レセプション

会場:YCAMスタジオAロビー
参加者:43名（参加料2,000円他）

プロジェクトメンバーと直接お話できる機会を設けました。







1　　コロガルガーデン　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1※[1]【関連】子どもあそびばミーティング　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1※[2]【関連】コロガル BEAT MIX ！　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

1　コロガルガーデン

開催日:6月18日（土）～9月4日（日） 10:00～17:00<火曜、7月11日～13日、8月15日～17日除く>
会場:YCAMホワイエ、YCAMスタジオB
参加者数:53,142名（参加無料／関連事業含む）

平成24年にYCAMに登場して以来、大人気の「コロガル公園シリーズ」の5弾目となる最新バージョンを開催しました。
コロガル公園シリーズは、子どもたち自身が遊びを通じて考え、想像力を育む環境としてデザインされており、メディア時代の新しい学びの場を提案する取り組みです。
スタジオBに大小異なるブロック群が、そしてホワイエには緩やかな流線型を描く巨大な滑り台が出現しました。性格の異なる2つの空間は、未就学児からご年配の方まで、幅広い年齢層の方が楽しむことができるようにデザインしました。
約3か月の会期中に累計53,142人もの方々にご来場いただき、最終日には利用者の子どもたち有志によるお祭り「コロガルフェス」も開催され、大盛況のうち終えることができました。

【関連】子どもあそびばミーティング

開催日:7月10日（日）、8月14日（日） 各日14:00～15:30
会場:YCAMホワイエ

コロガルガーデンで遊ぶ子どもたちがコロガルガーデンに追加したい新しい機能などのアイデアを議論する、ミーティング形式のイベントを開催しました。議論を経て最終的に採用されたアイデアは、YCAM InterLabがコロガルガーデンに実装しました。

【関連】 夏休みだよ！夜のコロガルに全員集合！

開催日時:8月12日（金）～8月14日（日）17:30～22:00
会場:YCAMスタジオB、YCAMホワイエ

「真夏の夜の星空上映会」開催に合わせて、コロガルガーデンのオープン時間を延長しました。テクノロジーを駆使したイルミネーションで、昼間とは一味違った演出をお楽しみいただきました。

【関連】コロガルBEAT MIX！

開催日時:8月13日（土）17:30～19:00
会場:YCAMスタジオB
出演:STUTS

気鋭のトラックメーカー／MPCプレイヤーのSTUTSを招き、コロガルガーデンの機能を用いたライブパフォーマンスを披露しました。

2※[1]　2※[2]
2※[3]　2※[4]
2※[5]　2※[6]

2※[1] vol.1 パンと酵母　撮影：大林直行（101 DESIGN）
2※[2] vol.2 発酵と DIY　撮影：大林直行（101 DESIGN）
2※[3] vol.3 森の DNA　撮影：大林直行（101 DESIGN）
2※[4] vol.4 ヒトと共生微生物　撮影：大林直行（101 DESIGN）
2※[5] vol.5 生物とプログラミング　撮影：大林直行（101 DESIGN）
2※[6] vol.6 細胞と遺伝子　撮影：大林直行（101 DESIGN）

2　YCAMバイオ・リサーチ・オープンデイ

会場：YCAMコミュニティ・スペース

YCAMでは、専門家以外でも触れる機会が増えてきたバイオテクノロジーの応用可能性について研究を実施しています。本年度はその研究成果を紹介・体験できるイベントを6回開催し、普段の生活にバイオをぐっと近づける機会を創出しました。イベント開催日以降も引き続き一週間程度、展示のみ公開しました。

●vol.1 パンと酵母

開催日：6月25日（土）13:00〜17:00
参加者：268名（参加無料）

「キッチンからはじめるバイオ」をテーマとした酵母についてのリサーチ過程や、実験道具と機能が似ているキッチン道具等を紹介するなど、身近なものからバイオの世界を探れるよう工夫を凝らした展示を行いました。会場は展示物のシャーレやチューブを手に取って興味深く見たりバイオラボスタッフの話に耳をかたむける人々で溢れました。また、同時開催したバイオラボツアーでは館内「バイオラボ」の設備を案内するとともに、中央公園に出てクスノキについた苔や、サクラの樹液などを採取し、酵母のための栄養が入った培地に移すプロセスを体験していただきました。

●vol.2 発酵とDIY

開催日：7月9日（土）13:00〜17:00
参加者：296名（参加無料）

近年改めて見直されてきている発酵文化に焦点を当て、日本酒やヨーグルト、ザワークラウト、キムチといった身近な発酵食品づくりで活躍する乳酸菌や麹菌などの微生物についての研究と、発酵のプロセスや実験に用いる道具類の試作に取り組んできました。今回は、その研究成果をご紹介するべく、発酵微生物の観察結果や、発酵のプロセスで活用する道具である保温器（インキュベータ）の試作物を展示しました。また、バイオラボツアーではバイオラボ見学のほか、オープンデイの為につくられた道具の基本構造の組み立てを実際に体験いただける内容となりました。

●vol.3 森のDNA

開催日：10月8日（土）13:00〜17:00
参加者：82名（参加無料）

山口はどこにいても森が目に入りますが、そこではどんな生き物がどのように暮らしているのでしょうか。博物館の研究者のご協力のもと森に入り、生き物の観察・採集方法を学び、採集した生き物の観察や解析をおこなってきました。そこで今回は、森の生き物の種を特定するための方法として、昆虫や植物の採取道具や「DNAバーコーディング」と呼ばれる方法を手順に沿って展示した他、スマホ顕微鏡をつかった植物やトンボの羽根の観察や、果物からDNAを抽出する実験の体験コーナーを設置しました。以前のオープンデイにも参加してバイオ・リサーチに興味を持ってくださった親子から、一般の学生や生物学の専門家まで、幅広く参加いただきました。

●vol.4 ヒトと共生微生物

開催日：11月12日（土）13:00〜17:00
参加者：68名（参加無料）

近年、私たちの身体や、大気中、土の中などあらゆる場所に生息する微生物が、昆虫や動植物、ヒトと共生関係にあることがわかり注目を浴びています。そこで、大阪のコミュニティ農園「北加賀谷みんなのうえん」と共同で、山口市内や大阪市内の農地や公園から土壌を採取し、Genomedia株式会社の協力のもと、「メタゲノム解析」をおこないました。この方法では、様々な微生物が混在している状態でDNAを解析することができ、土壌や河川、ヒトの腸内環境などにどんな微生物がどんな割合でいるのかを調べられます。今回は、その一連のプロセスや、解析結果からどのようなことがわかる可能性があるのかを紹介しました。ワークショップでは参加者に微生物採取の体験後数日間、YCAMバイオラボもしくはご自宅の環境で培養し身近な微生物の様子を観察していただきました。

●vol.5 生物とプログラミング

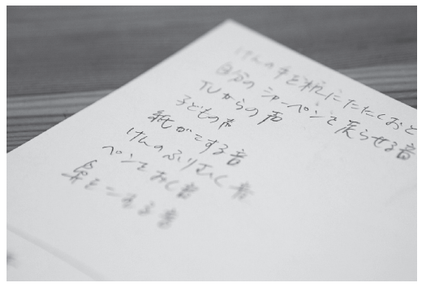
開催日：12月10日（土）13:00〜17:00
参加者：85名（参加無料）

これまでのリサーチで用いてきたソフトウェアを中心に、生物に関連する情報の検索や解析、設計支援をおこなうための方法の紹介や、これに関連して山口大学で開発された「パン酵母を用いた遺伝子工学実験キット」の展示を行いました。さらにYAMA KITCHEN事業と連携し、ゲノムが解読された生物だけを食材に用いた「ゲノム弁当」を数量限定で販売し、DNAやゲノムの情報から何がわかるのか、今後どのような活用方法があるのか、国立の研究機関であるライフサイエンス統合データベースセンターや大学の専門家とともに考えました。
また、生物の遺伝情報の流れを学ぶことができるパズル「セントラル・ドグマ」を使って子供も大人もDNAからタンパク質が作られる仕組みについて楽しく学ぶことができる体験コーナーも設けました。

●vol.6 細胞と遺伝子

開催日：2017年2月11日（土・祝）13:00〜17:00
参加者：73名（参加無料）

最終回では、過去のオープンデイでもキーワードとなっていた「DNA」から一歩進み、そのDNAを取り巻く環境（細胞）に注目し、ヒトの細胞から人工的に作成可能な幹細胞であるiPS細胞に焦点を当ててリサーチに取り組み、そのプロセスを紹介しました。また今回は、日本におけるiPS細胞研究の拠点の一つ、京都大学iPS細胞研究所（CiRA）から3名の若手研究者をお招きし、iPS細胞の基礎から応用まで、市民の方々と広く意見交換できる機会をつくりました。iPS細胞について知ることができる「幹細胞かるた」や「幹細胞すごろく」、iPS細胞を観察できる顕微鏡のまわりは多くの子どもたちで賑わいました。



3

3 walking around surround

3
3 3
3 3

3 YCAMオリジナルワークショップ

場所:YCAMコミュニティ・スペース

YCAMでは、人と「社会」「身体」「メディア・テクノロジー」との関わり方をテーマに多数のワークショップを開発しています。「テクノロジー“を”学ぶ」のではなく、「テクノロジー“で”学ぶ」あるいは「テクノロジー“から”考える」といった実践的なアプローチを重視しており、メディア・テクノロジーとの適切な向き合い方や知識の強化だけではなく、普段の生活に新たな視点をもたらし、それまでにない価値観を通して物事をとらえる「想像力／創造力」の向上にも繋がるよう設計しています。

●walking around surround

開催日:5月21日(土)～6月26日(日)の内毎土・日曜 14:00～16:00(計8回)
参加者数:53名(参加無料)

「音を聴く」という行為をとらえ直し、「音」と「空間」について学ぶワークショップです。目隠ししたまま歩くなどのエクササイズを通じて、人間の聴覚の特徴を理解したうえで、YCAMが開発したワイアレススピーカーを使って「音と空間のコンポジション(作曲)」にチャレンジします。本作は、2012年にキッズデザイン賞を受賞しました。

●パスタ建築

開催日:7月23日(土)～8月28日(日)の内8日間 各日14:00～16:00(計8回)
参加者数:70名(参加無料)

2007年に開催した展覧会「Corpora in si(gh)te」に際して開発したワークショップです。このワークショップでは、事前に「強くする」や「高くする」など1人1つ指定されたシンプルなルールに従って、複数人でパスタを使った構造物を作品として作り上げていきます。複数人での取り組みから生み出される「共創」という考え方を、実際に身体を動かしながら意識することで、インターネット上で複数人の知識が集まってつくられるWikipediaなどの「集合知」の仕組みを考えるきっかけとなります。

●感覚アスレチック

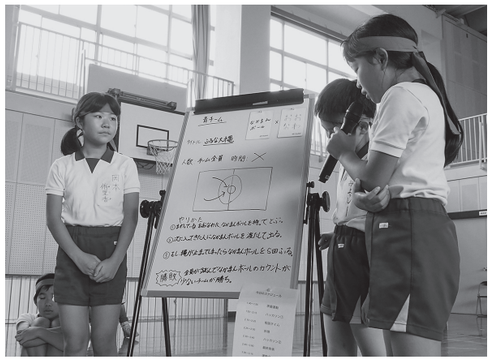
開催日:9月17日(土)～10月30日(日)の内8日間 各日14:00～16:00(計8回)
参加者数:79名(参加無料)

わたしたちのカラダの特性を把握し、「空間」と「カラダの動き」について学ぶワークショップです。会場内に張り巡らされたゴムを避けていくというゲーム形式のエクササイズを通じて、自分のカラダの形状やスケールを改めて理解するとともに、普段は意識することのない細かい重心の移動や身のこなしにチャレンジします。知っているようで知らない自分のカラダへの理解を深めることは、建築やダンスなどの空間を扱う表現にもつながります。本ワークショップは2012年度キッズデザイン賞において、経済産業大臣賞を受賞しています。

●コトバ身体

開催日:11月19日(土)～12月18日(日)の内8日間 各日14:00～16:00(計8回)
参加者数:47名(参加無料)

2012年にYCAMで行われた公演「庭みたいなもの」の関連イベントとして、振付家の山下残(やましたざん)さんと共同で開発したワークショップです。YCAMが独自に開発したソフトウェアを用いて、自分の身体の動きや、動きをイメージする言葉をコンピューターに取り込み「コトバ身体」としてデータベース化し、皆で複数の動きを繋いだダンスを作ります。参加者は、実際に身体を動かしながら、他の参加者とのイメージの差や、言葉と身体の動きの関係を探ります。



4※1 小郡南小学校５年生　撮影：田邊アツシ

4※2 【関連】スポーツハッカソン for Kids　撮影：田邊るみ

4※3 【関連】未来の海の運動会　撮影：田邊るみ

4　YCAMスクールプログラム「スポーツハッカソンfor Kids」

YCAMスクールプログラムとは、鑑賞教育や体験学習を通じて、より多くの人々にメディア・テクノロジーの持つ可能性に触れ、従来の常識や発想の転換、豊かな想像力を育むことを目的に、小学生から大学生を対象に行っているプログラムです。
今年度は、参加者同士が議論やプレゼンテーションを繰り返しながらメディア・テクノロジーを駆使したYCAMオリジナルの不思議な道具と、なじみのある競技を組み合わせ新しいスポーツを作る「スポーツハッカソン」を小学生向けの教育プログラムとしてアレンジし、市内3校の小学校で実施しました。「スポーツ開発（ハッカソン）とミニ運動会」に加え、事前にプログラムの内容について説明するレクチャーを授業の複数コマを使い、山口市教育委員会の「山口市子ども芸術体感事業」の一環として展開したものです。

●小郡南小学校5年生

開催日:事前レクチャー9月16日（金）／スポーツハッカソン+運動会9月20日（火）
参加者数:70名

●小郡小学校6年2組

開催日:事前レクチャー11月22日（火）／スポーツハッカソン11月24日（木）／運動会11月29日（火）
参加者数:23名

●大海小学校5・6年生

開催日:事前レクチャー11月22日（火）／スポーツハッカソン+運動会11月28日（月）
参加者数:42名

【関連】スポーツハッカソンfor Kids

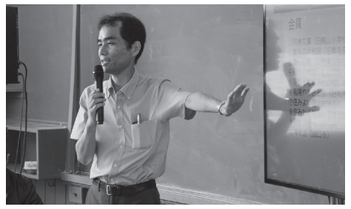
開催日:6月12日（日）、6月19日（日） 各日14:00～16:00
会場:YCAMスタジオA
参加者数:6月12日／参加28名、見学70名　6月19日／参加25名、見学50名（参加無料）

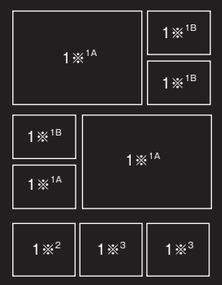
トライアルイベントとして、小学3～6年生を対象に開催しました。山口で育つ子供たちが、これからの時代を生きる中で向き合う、メディア・テクノロジーに触れる機会を増やし、楽しみながら学んでいける環境を生み出します。

【関連】未来の海の運動会

開催日:スポーツハッカソン7月24日（日）／運動会7月31日（日）
会場:山口きらら博記念公園
参加者数:7月24日18組36名／7月31日110名

スポーツハッカソンで参加者は、運動会でおなじみの道具や最新のスポーツアイテムを使って、海で行う運動会にふさわしい競技を4種目開発しました。それに、以前YCAMにて開催したスポーツハッカソンで生み出された競技をさらにアレンジしたもの3種目を加えた計7種目で運動会を実施しました。参加者は4チームに分かれて、大人も子供も一丸となって優勝賞品を目指して白熱した運動会となりました。





1 ※[1] 村おこし国際会議（ICVR 2）in 阿東
- 1 ※[1A] 撮影：田邊るみ
- 1 ※[1B] 撮影：田邊アツシ

1 ※[2] YCAM セッション 撮影：田邊アツシ

1 ※[3] 【関連】How to make a bamboo bike ーバンブーバイクができるまで 撮影：田邊アツシ

1 世界ヴィレッジデザイン会議

開催日:8月5日（金）～8月7日（日）

インドネシアのデザイナー、山口の中山間地域の住民、都市の建築家、YCAM地域開発ラボといった異なる背景を持つ人たちと共に、阿東地区とYCAM舞台にカンファレンスやフィールドワーク、ディスカッションを開催しました。これからの生きる姿勢を「村のデザイン」から新たに学び、語り合う3日間の複合型イベントを実施しました。

●村おこし国際会議（ICVR2）in 阿東

開催日:8月5日（金）14:00～20:00、8月6日（土）10:00～20:00 ※2日間通し
会場:阿東文庫
参加者数:32名（参加料18,000円他）
講師:シンギー・カルトノ、株式会社オープンハウス、阿東文庫の人たち、miri meter、YCAM地域開発ラボ

インドネシアでプロダクトデザインを通した持続可能な農村の構築に取り組むシンギー・カルトノ氏が主宰する村おこしに関する国際会議を、阿東地区にある私設図書館・阿東文庫にて開催しました。初日は高齢化・過疎化が進む阿東地区を舞台にフィールドワークをおこない、阿東が持つ資源や特徴について調査しました。2日目は、インドネシアと日本、双方における中山間地域の実験的な取り組みについて、多数のパネリストを招いて紹介していただきました。異なる地域や世代を超えた参加者が合宿形式で阿東に滞在し、中山間地域の実態を理解し合い、地域課題を語り合った2日間となりました。

●YCAMセッション

開催日:8月7日（日） 13:00～17:00
会場:YCAMスタジオA
参加者数:115名（参加無料）
出演者:シンギー・カルトノ、株式会社オープンハウス、阿東文庫の人たち、miri mater、YCAM地域開発ラボ

会場を阿東からYCAMに移し、都市圏も含む国内外から招いたゲストと共に、阿東地区で行われた国際会議を振り返り、インドネシアと日本の視点から農村社会の未来について話し合うトークイベントを開催しました。また、現在YCAMがハブとなり、シンギー氏や阿東文庫、株式会社オープンハウスと推進している、山口市内の竹を用いた自転車をつくるプロジェクト「Spedagi Ato」の取組について紹介もおこないました。

【関連】How to make a bamboo bikeーバンブーバイクができるまで

開催日:7月16日（土）～8月29日（月） 10:00～20:00<火曜除く>
会場:YCAMインフォメーション・スペース

プロジェクト「Spedagi Ato」の一環として製作を進めている竹製の自転車、バンブーバイクのビジョンやその製作プロセスを紹介する展示です。

【関連】bamboo playー竹の風車をつくって遊ぼう!

開催日:8月7日（日） 10:00～12:00
会場:YCAMスタジオA横ロビー
参加者数:30名（参加無料）
講師:ザイニー・アリフ（ゲームデザイナー）

旧暦の七夕の日にちなんでインドネシアと日本の竹の皮や葉っぱを使って、音の出る風車をつくり、ゲームをおこなうワークショップを開催しました。

2※1 2※1
2※2 2※2
2※3 2※4

2※1 vol.1 酵母ってなぁに？ 撮影：StudioECHO

2※2 vol.2 自分でつくる麹 撮影：StudioECHO

2※3 1日店長 踊るUKカレーナイト 撮影：StudioECHO

2※4 シネマキッチン 撮影：StudioECHO

2 YAMA KITCHEN

開催日:4月9日（土）～2017年3月26日（日）の内毎週土・日曜<9月3日、4日、10日除く> 11:30～15:30
会場:YCAMレストランスペース
参加者数:4,983名（シェアキッチン300円他）

私たちの生活において身近な行為／概念である「食」を題材に、コミュニケーションを活性化させる場を生み出すプロジェクトです。地産の食材を使ったおかずを気軽におむすびやサンドウィッチとしてデザインして食べることができるDIYランチのセットや、県内のカフェや工房が週替わりでお弁当やおやつ、パンの販売を行いました。また、誰もが利用できるシェアキッチンとして一般に公開するほか、さまざまなワークショップを開催しました。

●菌が世界を変える！発酵の知恵―地域食×バイオ

地域の食文化に深い関わりを持つ「発酵」に新たな焦点を当てたワークショップシリーズを開催しました。「YCAMバイオ・リサーチ・オープンデイ」と連動しており、私たちの生活に身近な「発酵」について、さまざまな観点から新たな知識に触れることができる機会を提供しました。

vol.1　酵母ってなぁに?

開催日:6月24日（金） 19:00～22:00
参加者数:15名（参加料500円）
講師:赤田倫治（山口大学工学部応用化学科教授）、YCAMバイオ・リサーチ

私たちの生活に欠かせない「パン」を切り口に、酵母の働きや、人間と酵母の関わりの歴史、パンの作り方などさまざまなトピックについて講師とともに理解を深めました。山口の地域で採取した酵母菌を使ったパンで作ったサンドイッチの実食も行い、酵母菌の性質や食における役割を体感的に学ぶ機会となりました。

vol.2　自分でつくる麹

開催日:7月22日（金） 19:00～22:00
参加者数:参加21名、見学3名（参加料500円）
講師:吉松敬祐（農家）

日本酒や味噌、醤油などの発酵食を語る上で欠かすことのできない麹。農村では昔から発酵を利用した農業や食にまつわる様々な知恵が継承されてきました。麹づくりで定評のある講師の指導のもと、誰もが手軽にできる麹作成方法を学びました。

●1日店長　踊るUKカレーナイト

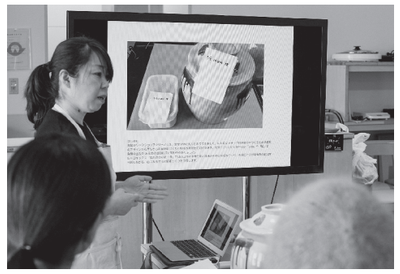
開催日:9月30日（金）19:00～22:00
参加者数:16名（参加料500円）
講師:竹下暁子（YCAMスタッフ）

アート&テクノロジーのプロデュースを学ぶために1年間イギリスに滞在していたYCAMスタッフが、イギリスで教わった「ダルカレー」を振る舞うとともに、身を持って体験した食文化を紹介しました。

●シネマキッチン

開催日:10月30日（日） 10:30～19:00
参加者数:8名（参加料3,500円）

映画鑑賞後、食事をしながら感想を共有するイベントです。今回は濱口竜介監督作「ハッピーアワー」を題材に開催しました。参加者は上映後、映画のカギとなる食事シーンを追体験しながら、感じたこと、考えたことを参加者全員で共有しました。



2※1
2※1
2※2
2※2
2※3
2※3

2※1　Vol.1 味噌のかめ・樽
2※2　Vol.2 キムチのオンギ　撮影：StudioECHO
2※3　Vol.3 ぬか床のかめ・樽　撮影：StudioECHO

●レトロキッチン

昔ながらの発酵食づくりと環境の関係性を読み解くワークショップシリーズです。

vol.1　味噌のかめ・樽

開催日:12月24日（土）11:00〜13:00
参加者数:参加10名（参加料500円）
講師:百日紅

阿東で有機農業を営む吉松敬祐さんの手づくり麹をもとに、山口県周南市で有機農産物の加工に取り組む百日紅のメンバーを講師に迎え、昔ながらのかめや樽を使って味噌をつくりました。

vol.2　キムチのオンギ

開催日:2017年1月28日（土）
参加者数:9名（参加料500円）
講師:朴鈴子（YCAMスタッフ）

韓国で買い付けた食材をもとに、本格的に乳酸発酵をしたキムチづくりをおこないました。このとき、韓国で用いられる「オンギ」と呼ばれるカメを用いた場合と、ジャーなどの手軽に使える道具を用いた場合で発酵状況にどのような違いが生まれるのかを比較しながらつくりました。

vol.3　ぬか床のかめ・樽

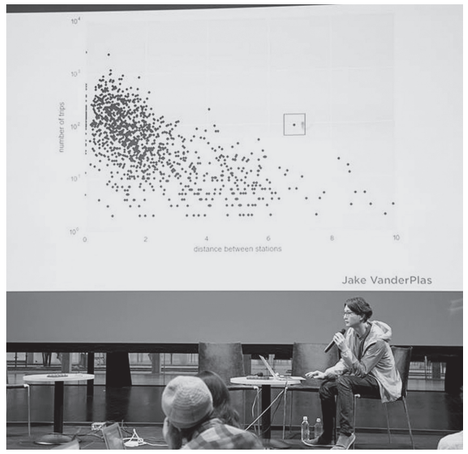
開催日:2017年2月25日（土）11:00〜13:00
参加者数:11名（参加料500円）
講師:須田加弥子

ぬか床は、材料の使い方や仕込み方によって、風味が繊細に変化します。本ワークショップでは、古来のかめや樽と山口産の米ぬかを用いて、山口ならではのぬか床づくりを目指しました。

発酵持ち寄りサミット

開催日:2017年3月25日（土）11:00〜13:00
参加者数:9名（参加料500円）

「レトロキッチン」を総括するイベントです。ワークショップでつくった食品の発酵過程の観測結果を共有したり、参加者のみなさんが持ち寄った自家製の発酵食を試食しながら、菌の活動と固有の「環境」や「道具」との相関関係を探るイベントです。



3　RADLOCAL 2　撮影：萱野孝幸
3※1 【関連】公開ディスカッション　撮影：萱野孝幸
2※2 【関連】RADLOCAL 2商店街ディスカッション　撮影：StudioECHO

3　RADLOCAL2

開催日:11月3日（木·祝）～11月6日（日） ※4日間通し
会場:YCAMスタジオA
参加者数:25名（参加無料）
講師:水野大二郎（デザイン研究者／デザインリサーチャー）、影山裕樹（編集者／プランニング·エディター）、山田興生（ソフトウェアエンジニア）

「地域×メディア」をテーマに、地域課題、地域発信、公共空間といった問題に対し、幅広い発想力から適切な解決策を提案できる人材を育成する4日間の集中ワークショップを開催しました。2014年に引き続き2回目の開催となる今回は、人口が減少し過疎化が進展するこれからの地域社会を見据え、「道具としてのデータ解析」と「データを介して地域を考える企画力」の2点の習得を目指してプログラムを展開しました。
県内外から集まった参加者は、各分野の専門家から情報のリサーチや分析、発信の技法を学び、実践的なデータの分析の演習の実施や、山口市中心商店街や湯田温泉を舞台としたフィールドワークをおこないながら、未来の地域社会のアイディアを検討しました。

【関連】公開ディスカッション

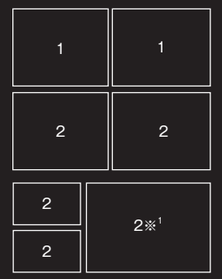
開催日:11月6日（日） 13:00～16:30
会場:YCAMホワイエ
参加者数:75名（参加無料）

RADLOCAL2最終日には、一般の聴講者も交え、参加者がグループワークの成果から生まれた情報発信の方法を提案する「プレゼンテーション」と、その内容に基づいて講師たちが議論をおこなう「パネルディスカッション」を開催しました。

【関連】RADLOCAL2商店街ディスカッション

開催日:2017年1月13日（金） 18:00~21:00
会場:mirai365（山口市米屋町）
参加者数:31名（参加無料）

RADLOCAL2で生まれたアイディアを、山口市中心商店街ならびに湯田温泉で暮らす人々に向けて発表し、それを起点にグループワーク体験とディスカッションを行いました。



1　真夏の夜の星空上映会　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

2　YCAM 爆音映画祭 2016　撮影：萱野孝幸

2※[1]　爆音ライブ上映　撮影：萱野孝幸

1　真夏の夜の星空上映会

開催日:8月12日（金）〜8月14日（日） 各日19:30〜
会場:山口市中央公園
参加者数:1,470名（参加無料）
上映作品:「スタンド・バイ・ミー」「映画ひつじのショーン〜バック・トゥ・ザ・ホーム〜」「シェフ 三ツ星フードトラック始めました」

YCAMの「夏の風物詩」となった屋外での映画上映会を本夏も開催しました。涼しくなった夕暮れ時に、お友達やご家族と中央公園の芝生の上にゆったりと腰かけて映画をご覧いただきました。また、期間中はドリンクや軽食を楽しめる屋台も登場し、普段屋内で鑑賞するものとは一味違った雰囲気の中映画をお楽しみいただきました。
今年で13回目を迎えた本イベントは、親子連れからお年寄りまで幅広い年齢層の方々にお越しいただき、前年を大きく上回る過去最多の入場者数となりました。

2　YCAM爆音映画祭2016

開催日:8月25日（木）〜8月28日（日）
会場:YCAMスタジオA
参加者数:1,227名（一般1,300円他）
上映作品:「ギ・あいうえおス 他山の石を以って己の玉を磨くべし」「光の墓」「マッドマックス 怒りのデス・ロード」他

高品質な大音量の中で映画を鑑賞する「爆音映画祭」を今年も開催しました。
爆音で襲いくる過激なアクションや恐怖の臨場感、そして、普段は聞き逃している豊かな音の世界との出会いを、日本屈指の音響環境を誇るYCAMがお届けする映画祭です。
オープニング作品には2015年度にYCAM Film Factory vol.1にて制作された柴田剛監督作品「ギ・あいうえおス 他山の石を以って己の玉を磨くべし」をワールド・プレミア上映しました。

●爆音ライブ上映

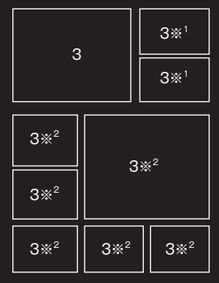
開催日:8月26日（金） 19:00〜
入場者数:213名（前売一般2,000円他）
出演:cero

多彩な映画プログラムに加え、毎年大注目の爆音ライブ上映も開催。ポップバンド「cero」がアニメーション界のレジェンド、ブルース・ビックフォードの映像に即興で音を紡ぐライブパフォーマンスを実施しました。

【関連】YCAM presents 爆音映画祭 in WILD BUNCH FEST.2016

開催日:8月20日（土） 19:35〜
会場:山口きらら博記念公園
参加者数:650名
出演:七尾旅人

爆音ライブ上映を、WILD BUNCH FEST.2016にて実施しました。こちらではミュージシャンの七尾旅人がブルース・ビックフォードの映像とともにライブを展開しました。



3　YCAM Film Factory vol. 2　撮影：山中慎太郎（Qsyum!）

3※1　【関連】『バンコクナイツ』ジャバンプレミア爆音上映　撮影：萱野孝幸

3※2　【関連】sound tectonics#18「バンコクナイツ・トリビュートライブ」　撮影：萱野孝幸

3　YCAM Film Factory vol.2［空族+スタジオ石+YCAM］バンコクナイツ展「潜行一千里」

開催日:9月24日（土）～11月6日（日）
会場:YCAMスタジオB
入場者数:1,877名（入場無料）
参加アーティスト:空族、富田克也、相澤虎之助、向山正洋（MMM）、古屋卓麿（Mr.麿）、山﨑巌

本展は、映像制作集団・空族の新作映画『バンコクナイツ』の舞台となったタイ・ラオスの旅路を、映画とは別の角度で編み直した、空族初となる4+1面のマルチスクリーンによる映像音響インスタレーション作品です。本作のために、空族+スタジオ石+YCAMの特別チームが再度現地を訪れ撮影をおこないました。現地の人々、文化、歴史と向き合い繰り広げられた現地調査の成果を織り交ぜることで、映画では描き尽くされなかった、タイ・ラオスおよび東南アジア全体を俯瞰した視点を打ち出し、会場ではまるで現地に居合わせたかのような臨場感を味わうことのできる作品となりました。

【関連】『バンコクナイツ』ジャバンプレミア爆音上映

開催日:9月24日（土） 13:00開場／13:30上映開始
会場:YCAMスタジオA
入場者数:191名（一般1,000円他）

空族5年ぶりとなる待望の新作映画『バンコクナイツ』を、国内初上映しました。また今回は、コンサート用の音響セットを用いた1日限りの豪華「爆音」使用での披露となりました。

【関連】sound tectonics#18「バンコクナイツ・トリビュート・ライブ」

開催日:9月24日（土） 18:30開場／19:00開演
会場:YCAMスタジオA
入場者数:189名（一般1,800円他）
アーティスト:アンカナーン・クンチャイ（モーラム歌手）、ブロイ・クンチャイ（モーラム歌手）、ボー・サラートノーイ（モーラム歌手）、ボンサポーン・ウバニ（ミュージシャン）、stillichimiya（ラップグループ）

『バンコクナイツ』に関連するミュージシャンたちによるライブコンサートを開催しました。

4　YCAM Film Factory vol.3

開催日:通年
参加アーティスト:染谷将太、菊地凛子、金林剛

YCAMプロデュースのもと新作映画を製作するプロジェクトの第3弾です。今回は、映画製作の現場でブラックボックス化しがちな演技と演出の関係性を明らかにすることをテーマに、熟練した俳優であると同時に監督でもある染谷将太による監督作を制作し、発表します。2016年度はロケーション・ハンティングとシナリオ作りを進めた上で、およそ1週間にわたってYCAMの館内を中心に撮影を行い、その後の編集作業を終えました。完成作品は2017年8月開催の「真夏の夜の星空上映会」で初上映を行います。

5　特集上映

会場:YCAMスタジオC
入場料:1,300円他

山口では上映される機会の少ない映画作品をプログラムの中心とし、作家やテーマ別のYCAMだけのオリジナルの特集企画のほか、文化庁推薦作品などの優れた特集シリーズを巡回上映しています。

●苛烈な生の発火点

開催日:4月9日(土)～4月23日(土)の内6日間
入場者数:144名
上映作品:「ディーバンの闘い」「恋人たち」他

●パリ。過去と今を結ぶ恋の物語

開催日:4月22日(金)～4月24日(日)
入場者数:74名
上映作品:「あの頃エッフェル塔の下で」「カミーユ、恋はふたたび」

●至高の音楽に浸る

開催日:4月29日(金・祝)～5月1日(日)
入場者数:232名
上映作品「愛と哀しみのボレロ《デジタル・リマスター版》」「ロイヤル・コンセルトヘボウオーケストラがやってくる」

●建築遺産を堪能す

開催日:5月3日(火・祝)～5月7日(土)の内4日間
入場者数:182名
上映作品:「もしも建物が話せたら」「創造と神秘のサグラダ・ファミリア」

●アニメーションfromブラジル

開催日:5月4日(水・祝)～5月8日(日)の内4日間
入場者数:45名
上映作品:「父を探して」

●ANIME-ASEAN日本ツアー

開催日:5月8日(日)
入場者数:22名
上映作品:「残酷なまでに率直:シンガポール・アニメーションの新しい風」
講演:シンガポール・アニメーションの今
ゲスト:タン・ウェイ・キョン、カピー・イーバック
上映作品:「マージナル・シークエンス:ゴトット・プラコサと現代インドネシア・アニメーション」
講演:中心なき周縁 インドネシア現代の映像におけるアニメーション実践
ゲスト:リズキー・ラズアルディ

●ワイルドサイドを歩け!

開催日:5月14日(土)～5月21日(土)の内3日間
入場者数:135名
上映作品:「美術館を手玉に取った男」「バンクシー・ダズ・ニューヨーク」

●キム・ギドクと足立正生のセンセーション

開催日:5月21日(土)～5月29日(日)の内4日間
入場者数:74名
上映作品:「殺されたミンジュ」「断食芸人」

●「ふたりの桃源郷」と、、、

開催日:6月11日(土)～7月1日(金)の内12日間
入場者数:2,031名
上映作品:「ふたりの桃源郷」「風の波紋」他

●挑発するレトロ・フューチャー

開催日:7月2日(土)～7月9日(土)の内4日間
入場者数:73名
上映作品:「あやつり糸の世界《デジタル・リマスター版》」

●女の生きざま

開催日:7月8日(金)～7月18日(月・祝)の内7日間
入場者数:397名
上映作品:「さざなみ」「ファブリックの女王」

●真相の深層

開催日:7月23日(土)～7月30日(土)の内4日間
入場者数:276名
上映作品:「牡蠣工場」「FAKE」

●人間は忘れる生き物である

開催日:8月4日(木)～8月7日(日)の内4日間
入場者数:146名
上映作品:「いしぶみ」「サウルの息子」「うつくしいひと《熊本地震チャリティー上映》」

●ヴィスコンティと美しき男たち—アラン・ドロンとヘルムート・バーガー

開催日:8月4日(木)～8月14日(日)の内6日間
入場者数:131名
上映作品:「山猫《4K・修復版》」「ルートヴィヒ《デジタル修復版》」

●時代を彩るアイドルたち<優秀映画鑑賞推進事業>

開催日:9月1日(木)～9月4日(日)
入場者数:168名
上映作品:「伊豆の踊子」「野菊の墓」他

●剥き出しの塊 真利子哲也と竹馬靖具

開催日:9月10日(土)～9月19日(月・祝)の内6日間
入場者数:155名
上映作品:「ディストラクション・ベイビーズ」「蜃気楼の舟」

●はみだしたっていいのだ!

開催日:9月17日(土)～9月25日(日)の内4日間
入場者数:75名
上映作品:「マンガをはみ出した男 赤塚不二夫」

●映画表現の最前線

開催日:10月8日(土)～10月16日(日)の内5日間
入場者数:101名
上映作品:「ホース・マネー」「イレブン・ミニッツ」他

●青春映画のススメ

開催日:10月15日(土)～10月23日(日)の内3日間
入場者数:95名
上映作品:「グッバイ、サマー」「裸足の季節」

●シネマキッチン

開催日:10月30日(日)
入場者数:48名
上映作品:「ハッピーアワー」

●源流への旅

開催日:11月3日(木・祝)～11月11日(金)の内5日間
入場者数:279名
上映作品:「ラサへの歩き方～祈りの2400㎞」「永遠のヨギー ヨガをめぐる奇跡の旅」他

●イスラームに出会う

開催日:11月4日(金)～11月13日(日)の内4日間
入場者数:110名
上映作品:「ソング・オブ・ラホール」「シリア・モナムール」

●日本映画の呼吸

開催日:11月12日(土)～11月27日(日)の内6日間
入場者数:385名
上映作品:「団地」「ふきげんな過去」「二重生活」

●富裕層と、戦い

開催日:12月3日(土)～12月11日(日)の内5日間
入場者数:192名
上映作品:「山河ノスタルジア」「At the terraceテラスにて」他

●藤田敏八と時代の色気<芸術文化振興基金助成事業(日本映画上映活動)>

開催日:12月22日(木)～2017年1月15日(日)の12日間
入場者数:366名
上映作品:「愛の渇き」「ツィゴイネルワイゼン」他

【関連】連続トークイベント
開催日:12月23日(金・祝)
登壇:山根貞男(映画批評家)

撮影 : StudioECHO

●氏原大作没後60年特別上映「幼き者の旗」

開催日:12月23日(金・祝)
入場者数:100名

●特別モーニングショー

開催日:2017年1月6日(金)～2017年1月15日(日)の内8日間
入場者数:295名
上映作品:「八重子のハミング」

●世界の美術館へようこそ!2

開催日:2017年1月21日(土)～2017年1月29日(日)の内5日間
入場者数:402名
上映作品:「フランコフォニア／ルーヴルの記憶」「グレート・ミュージアム ハプスブルク家からの招待状」他

●クレイジー・アバウト・ニューヨーク

開催日:2017年2月5日(日)～2017年2月12日(日)の内4日間
入場者数:118名
上映作品:「ティファニー ニューヨーク五番街の秘密」「スモーク」

●妄想こそが青春だ

開催日:2017年2月5日(日)～2017年3月17日(金)の内6日間
入場者数:84名
上映作品:「14の夜」「変態だ」

●フィルムdeアニメー35㎜フィルムでみる映画の世界ー

開催日:2017年3月3日(金)～2017年3月5日(日)
入場者数:375名
上映作品:「マイマイ新子と千年の魔法」「秒速5センチメートル」「MEMORIES」

【関連】映写室見学ツアー～映画の背中を見てみよう
開催日:2017年3月4日(土)～3月5日(日)計2回
会場:YCAMスタジオC映写室
参加者数:10名(無料)

実際に映画のフィルムに触れて重みやにおいを体感しながら上映過程をめぐる、体験型ツアーを開催しました。デジタルにはない、フィルムの映画ならではの柔らかな色合いなどの魅力をお伝えする機会となりました。

●海外進出する日本映画

開催日:2017年3月11日（土）～2017年3月20日（月・祝）の内5日間
入場者数:191名
上映作品:「淵に立つ」「ダゲレオタイプの女」

【関連】トークイベント+最新短編監督作特別上映
開催日:3月11日（土）
登壇:深田晃司（映画監督）
上映作品:「鳥」

撮影：StudioECHO

●アニメーションのハーモニー

開催日:2017年3月18日（土）～2017年4月9日の内12日間
入場者数:1,040名
上映作品:「この世界の片隅に」「ユーリー・ノルシュテイン監督特集プログラム［6作品］」

●金曜夜のYCAMシネクラブ

現代日本の映画作家を紹介する金曜夜限定プログラム

vol.11

開催日:4月8日（金）～5月27日（金）の内、7日間
入場者数:71名
上映作品:「ディアーディアー」「過ぐる日のやまねこ」「東京の日」

vol.12

開催日:6月10日（金）～7月29日（金）の内、8日間
入場者数:138名
上映作品:「無伴奏」「シェル・コレクター」「ジョーの明日ー辰吉丈一郎との20年ー」

vol.13

開催日:10月7日（金）～11月25日（金）の内、9日間
入場者数:201名
上映作品:「セトウツミ」「ケンとカズ」「クズとブスとゲス」

vol.14

開催日:2017年1月6日（金）、1月13日（金）、1月27日（金）
入場者数:37名
上映作品:「エミアビのはじまりのはじまり」

●YCAM名画座

映画史に残る傑作を上映

vol.1「ドミニク・サンダ特集」

開催日時:4月17日（日）～5月29日（日）の内6日間
入場者数:142名
上映作品:「優しい女《デジタル・リマスター版》」「暗殺の森《デジタル・リマスター版》」

vol.2「ロメールと女たち」

開催日時:6月19日（日）～7月31日（日）の内8日間
入場者数:159名
上映作品:「海辺のポーリーヌ《喜劇と格言劇》第3弾」「満月の夜《喜劇と格言劇》第4弾」他

vol.3「シーズン・オブ・レイ」

開催日:9月4日（日）～9月25日（日）の内4日間
入場者数:54名
上映作品:「チャルラータ」「ビッグ・シティ」

Vol.4

開催日:10月23日（日）～11月20日（日）の内4日間
入場者数:136名
上映作品:「ジプシーのとき」「バベットの晩餐会」

Vol.5

開催日:12月4日（日）～2017年1月22日（日）の内4日間
入場者数:126名
上映作品:「勝手にしやがれ」「気狂いピエロ」

Vol.6「永遠のオリヴェイラ」

開催日:2017年2月18日（土）～2017年2月26日（日）の内5日間
入場者数:168名
上映作品:「アンジェリカの微笑み」「レステロの老人」「アニキ・ボボ」他

[6] 主な貸館事業

●山口盆地考2016

（主催）街なか大学
開催日:7月23日（土）
会場:YCAM多目的室

●ロイヤルミルクティー上映会

（主催）山口大学映像制作サークルロイヤルミルクティー
開催日:2017年1月18日（水）
会場:YCAMスタジオC

[7] 施設利用状況

1 入館者数

月別内訳（人）

4月	47,665	10月	54,982
5月	59,286	11月	49,346
6月	63,976	12月	44,662
7月	80,646	1月	47,916
8月	85,011	2月	50,971
9月	55,738	3月	50,183
合　計	690,382		

2 見学・視察者数

月別内訳（人）

4月	5	10月	79
5月	71	11月	77
6月	62	12月	133
7月	76	1月	31
8月	11	2月	188
9月	5	3月	15
合　計	753		

3 施設使用状況

施設	開館日数（日）	使用日数（日）	使用率（%）
スタジオA	308	203	65.9
スタジオB	308	286	92.9
スタジオC	308	220	71.4
多目的室	308	156	50.6

※使用率は月ごとの使用率の平均値を記載しています。

[8] その他特記事項

1 アーカイブ事業

内容:例年通り、Webやインフォメーションスペースにおいて、イベントの告知や、過去の作品内容の情報提供に努めました。

2 実習生受け入れ状況

●博物館実習
1名（札幌市立大学）
期間: 8月20日～9月8日
内容:広報業務補助等

2名（山口県立大学）
期間:8月24日～8月31日
内容:教育普及事業運営補助等

●インターン
1名（香港）
期間:5月20日～6月20日
内容:教育普及事業運営補助等

1名（広島市立大学）
期間:9月4日～9月30日
内容:YCAM InterLab課業務補助等

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

主な関連新聞記事

〈参考資料〉
山口情報芸術センターの活動成果

YCAM InterLabオリジナルプロダクション／対外効果

[アート部門]

渋谷慶一郎+岡田利規「THE END」

音楽家の渋谷慶一郎と演出家の岡田利規が「終わり」をテーマにした、人間の歌手もオーケストラも登場しない初音ミクによるボーカロイド・オペラを制作。東京、パリを巡回した。
2012年12月1日-2日 YCAM
2013年5月23日-24日（Bunkamuraオーチャードホール/東京）
2013年11月12日-15日（Théâtre du Châtelet /パリ/フランス）

三上晴子「Desire of Codes ｜ 欲望のコード」

2010年に山口情報芸術センター[YCAM]にて委嘱制作し公開された。
2010年3月20日-2010年6月6日 YCAM
■「蠢く壁面」「巡視する複眼スクリーン」
2010年7月31日-9月5日 "TRUST" （Dortmund U/ドルトムント/ドイツ）
2012年8月27日-9月30日 Ars Electronica 2012(LENTOS Kunstmuseum/リンツ/オーストリア)
2013年2月13日-2月24日 第16回文化庁メディア芸術祭（国立新美術館/東京）
2013年7月5日-9月8日 Artist as Catalyst（La Alhóndiga Cultural Centre /スペイン）
2014年5月17日 Wonder of Fantasy:The Transformation of Coontemporary Image-scape(国立台湾美術館/台湾)
■「多視点を持った触覚的サーチアーム」
2010年8月5日-9月20日 "SPACE INVENTIONS" （Kunstlerhaus/ウィーン/オーストリア）
2011年10月22日-12月18日 ICC（初台/東京）
2012年8月27日-9月30日 Ars Electronica 2012(LENTOS Kunstmuseum/リンツ/オーストリア)
2013年2月13日-2月24日 第16回文化庁メディア芸術祭（国立新美術館/東京）
2013年7月5日-9月8日 Artist as Catalyst（La Alhóndiga Cultural Centre /スペイン）
2014年5月17日-8月3日 Wonder of Fantasy:The Transformation of Coontemporary Image-scape(国立台湾美術館/台湾)

「大友良英 / ENSEMBLES/quartets」

2008年に実施した「大友良英/ ENSEMBLES」展5作品の内、「quartets」について巡回した。
2008年7月5日 - 10月13日 YCAM
2013年12月21日-2014年2月16日 Media/Art Kitchen（Bangkok Art and Culture Centre [BACC]／バンコク／タイ）
2014年11月22日-2015年2月22日 大友良英　音楽と美術のあいだ（NTTインターコミュニケーション・センター[ICC]/東京）

渋谷慶一郎+池上高志「filmachine」

渋谷慶一郎と複雑系科学研究者の池上高志両氏によるコラボレーション作品。彼らが提唱する複雑系科学を応用した新しい音楽構成理論「第三項音楽」に基づいて緻密に作り上げられたコンピュータサウンドによる立体音響インスタレーションがMEDIA AMBITION TOKYOを巡回した。
2006年8月9日-10月9日 YCAM
2011年3月10日-20日 Festival EXIT （クレテイユ／フランス）
2011年3月24日-4月3日 Festival VIA（モブージュ／フランス）
2011年4月13日-8月14日 Gare Saint-Sauveur（リール／フランス）
2014年2月7日-3月30日 MEDIA AMBITION TOKYO（東京シティビュー／東京）

大脇理智「skinslides」

アートの地平を切り開く挑戦的なプロジェクトや、今後が期待される若手アーティストのインスタレーションなどを紹介する展示シリーズ「scopic measure」の第9弾として、ダンサーの大脇理智を中心としたアーティストグループnewClearが制作。文化庁メディア芸術祭を受賞した。
2009年4月25日-8月31日 YCAM
2014年2月26日-3月9日 文化庁メディア芸術祭釧路展（北海道立釧路美術館/北海道）
2014年9月5日-9月21日 文化庁メディア芸術祭松山展（愛媛県立美術館/愛媛）

池田亮司「supersymmetry」

日本を代表する電子音楽作曲家でアーティストの池田亮司による新作インスタレーション作品。フランスのル・リュー・ユニック・ユニック・ナント芸術センターとの共同制作の本作は、フランスでも巡回展示された。
2014年6月27日-9月21日 Le Lieu Unique（ナント／フランス）

坂本龍一+YCAM InterLab「Forest Symphony」

YCAM10周年記念祭の一環として、10周年記念祭のアーティスティック・ディレクターを務める坂本龍一とYCAM InterLabにより制作発表されたインスタレーション+ウェブコンテンツです。
2014年7月19日-9月28日 札幌国際芸術祭2014（モエレ沼公園/札幌）

セミトラ「eyefont」

2011年にYCAMで開催された展覧会シリーズ「LabACT」において発表された新作展示の一つ。体験者の視線の動きを使って、文字書体（フォント）を作りだすソフトウェアアート。
2015年10月16日-11月3日 Tokyo Midtown DESIGN TOUCH（東京ミッドタウン/東京）

[パフォーミングアーツ部門]

梅田宏明新作ダンス公演「Holistic Strata」

2011年2月19日-20日 YCAM
2011年3月10日-12日 EXIT-Festival（クレテイユ／フランス）
2011年3月31日-4月1日 VIA Festival（モブージュ／フランス）
2011年6月9日 ARTROCK Festival（サン・ブリュー／フランス）
2011年7月9日-10日 Julidans（アムステルダム／オランダ）
2011年8月25日-27日 Noorderzon Performing Arts Festival（フローニンゲン／オランダ）
2012年4月19日-21日 Usine C-Festival Temps d'Images（/カナダ）
2012年4月29日 Belrut International Platform of Dance(/レバノン)
2012年5月2日 Ramallah Contemporary Dance Festival(/パレスチナ)
2012年5月8日 Cultuurcentrum Hasselt(/ベルギー)
2012年9月25日-27日 La Blennale de la Danse/Theatre de la Renalssance(/フランス)
2013年6月26日 МЕДИАФЕСТИВАЛЬ（Winzavod Contemporary Art Center/モスクワ /ロシア)
2013年9月6日 あいちトリエンナーレ2013(愛知県芸術劇場/愛知)
2013年10月18日-19日 da:ns festival (Esplanade Theatre Studio/シンガポール)
2014年9月10日 Beakerhead（EPCOR CENTRE for Performing Arts/カナダ）
2014年10月16日 COTE　OUEST（Base sous-marine/フランス）
2014年11月25日 Stereolux（/フランス）
2014年11月29日 Convergence Summit（The Banff Centre/カナダ）
2014年12月5日 Automne en Normandie　2014（Le Rive Gauche/フランス）
2015年1月30日-31日 Trafó（/ハンガリー）
2015年10月10日 BOZAR Electronic Arts Festival（Hall M/ベルギー）
2015年11月19日 TodaysArt JP（クラブチッタ川崎/神奈川）
2016年3月12日 Tanzquartier Wien（/オーストリア）
2016年4月29日 L.E.V. Festival（Laboral`s Theatre/スペイン）
2016年9月15日-16日 Trafó（/ハンガリー）
2016年9月27日-28日 OzAsia Festival（Dunstan Playhouse/オーストラリア）
2016年10月20日 MUTEK Mexico（Teatro de la Ciudad Esperanza Iris/メキシコ）
2016年11月5日、7日 Danza en la Ciudad(Teatro Mayor Julio Mario Santodomingo/コロンビア)
2016年12月15日-17日 東京藝術大学Arts&Science LAB.（/東京）

[教育普及部門]

熊本市現代美術館ワークショップ招聘

熊本市現代美術館の夏休みイベントとして、身近なケータイというメディアを使って、マナーとルールを学ぶメディアリテラシーワークショップ「ケータイ・スパイ・大作戦」が招聘された。
2013年8月1日（熊本市現代美術館／熊本）

キッズデザイン展ワークショップ招聘

オリジナルワークショップシリーズがキッズデザイン賞2012の最優秀賞　経済産業大臣賞を授与したことから、同協議会が新潟市で開催する子ども向けイベント「キッズデザイン展」に受賞ワークショップのひとつ「感覚アスレチック」が招聘された。
2013年11月9日-10日（新潟県立自然科学館／新潟）

■受賞歴
犬飼博士/安藤僚子「スポーツタイムマシン」
第17回文化庁メディア芸術祭エンターテイメント部門　優秀賞受賞

YCAM InterLab+安藤洋子　共同研究開発プロジェクト　「Reactor for Awareness in Motion」
第17回文化庁メディア芸術祭アート部門　審査委員会推薦作品
2014年グッドデザイン賞　グッドデザイン賞受賞

子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルバビリオン」
第17回文化庁メディア芸術祭アート部門エンターテイメント部門　審査委員会推薦作品

メディアアートセンターから提案する新しい学び場環境「コロガル公園」シリーズ
2014年グッドデザイン賞　グッドデザイン賞受賞

子どもたちが創造する屋外メディア公園「コロガルバビリオン」
第8回キッズデザイン賞　審査委員長特別賞受賞

平成28年度
山口情報芸術センター事業報告書

山口情報芸術センター
Yamaguchi Center for Arts and Media

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : information@ycam.jp
http://www.ycam.jp

［発行］平成29年9月

公益財団法人 山口市文化振興財団
Yamaguchi City Foundation for Cultural Promotion

〒753-0075 山口市中園町7-7
TEL : 083-901-2222 FAX : 083-901-2216
e-mail : zaidan-info@ycfcp.or.jp
http://www.ycfcp.or.jp/